

報告者：高津（松が谷福祉会館）

## 令和4年度 第1回 台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告

### 1 開催日

【定例会】：毎月第2水曜日 13：30～15：00

リモート開催 1/12、3/9、4/13、5/11 (4回)

【連絡会】：3ヵ月に1回 定例会の前 13：30～14：30 3/9、5/11 (2回)

### 2 検討した内容

#### <相談支援部会 定例会>

##### (1) 地域生活支援拠点について

- ・「個人情報使用同意書」が障害福祉課より提示された。それを参考に各事業所で同意書を取り関係機関と情報共有していく。
- ・情報提供書を作成後、障害福祉課へ提出するが、その後の流れはどのようになっているのか、障害福祉課より7月部会にて回答予定。個人情報の取り扱いも含め共有方法を確認する。

##### (2) 地域包括支援センターとの交流会の実施

2月9日実施。障害部門より「地域生活支援拠点の紹介」、包括支援センターより「見守りネットワークの報告」を行った。民生委員やケアマネの連携について知ることができた。

##### (3) ヤングケアラーへの支援について

福祉課長より「ヤングケアラーへの支援について」説明あり。相談窓口などの案内を含め、相談員としての対応について学ぶ。

##### (4) 令和4年度検討テーマについて

2つの検討テーマとする。

- ①地域生活支援拠点について（リーフレット作成、流れの確認など）
- ②事例検討（個別の課題から地域の課題を考える）

##### (5) 講演会・勉強会について

テーマについて意見交換している。テーマ決定後、秋以降に実施予定。

#### <相談支援部会 連絡会>

各相談支援事業所の実績報告 令和3年11月～令和4年4月

##### (1) コロナ対応 ヘルパー事業所確保とサービス調整、家族状況把握等の課題

- ・利用者が陽性になると症状が軽い場合は自宅療養となるため、ヘルパーの派遣が

必要となるが入れるヘルパーがいない。濃厚接触者になった場合も同様。区の協定制度は陰性者が対象となることが前提。担当ヘルパーが陽性者・濃厚接触者になったことで本人も濃厚接触者等となり、居宅・通所・短期入所サービスの利用ができない。また通所や短期入所も休業になり家族が仕事を休み、対応することもある。

- ・濃厚接触者となった利用者を隔離したくても受け入れ先がない。
- ・本人が濃厚接触者等になったため、サービスを受けるためには陰性結果が必要。無料検査所・対応可能な病院を情報提供した。

#### 【課題・要望】

⇒濃厚接触者になった時、介助に入れる居宅事業所がほとんどない。対応可能な事業所の情報があると良い。

⇒通所・短期入所事業所のサービス再開が滞ると、障害者の家庭状況が変化し、本人もストレスを抱え自傷・他害・物損につながる。できるだけ早くの再開をお願いした。

### (2) ヘルパーの人材不足

毎月のようにヘルパー事業所の人出不足で人材の補てんができず、他事業所を探す支援が続いている。本人が事業所を探すということが基本ではあるが、資源がない状況では難しい。また、土日・夕方など支援が集中しているため事業所がみつからない。

### (3) 地域生活支援拠点（短期入所に関して）

コロナのクラスター発生により、短期入所を休止した期間が生じた。別の受け入れ可能な短期入所先情報を定期的に更新していくことも必要である。

### (4) 医療的ケア等のサービスの狭間になっているケース

呼吸器障害3級の場合、利用できる福祉用具がほとんどない。

呼吸器障害のため、歩行が困難となりポータブルトイレ、介護ベッドの利用が必要となったが、障害サービスでは対象外となり利用がすべて実費となる。介護保険も非該当のため、サービスの狭間となってしまっている。

### (5) 困難ケース

#### ①複数の課題が重なっているケース

10代（知的障害）、父、祖母、叔父の四人暮らし。居宅介護（入浴介助）の支援に入っているヘルパーより、登校拒否、浴室の汚れや家庭状況等についての相談がある。祖母は認知症のため家事や本人の世話をすることができない状況（通院しているが家族が介護保険の必要性を感じておらず、包括の介入も試みたが、拒否があり進展していない）父も理解力不足が見られるため、引き続き関係機関と連携を図りながら支援を行っていく。

## ②家族3人（母・姉・妹）ともに障害がある家族のケース

妹に振り回されて、母・姉が疲弊していたが、妹が医療保護入院後、八王子のGH(グループホーム)に入居。別々の生活を送り始めていた。1月ごろ母がGHに手紙を送ったことがきっかけで妹の帰りたい気持ちが強まり、一人で八王子からタクシーで区内の自宅に帰宅。GHを退去したいとの意向を母も受け入れ、GHを退去。自宅での生活に戻る。相談支援事業所も変更したいと希望している。

## ③中長期的な利用・ミドルステイが必要なケース

20代の知的障害の男性。家族への暴力があり、複数回警察が関わる案件となった後、現在、他県の短期入所事業所に入所している。ご本人の障害特性や家庭環境を考えると今後、家庭に戻ることは難しい。支援の難しいケースに対して、「緊急時一定期間対応できる短期入所」→「複数月利用可能な短期入所」→「支援の充実したGH」という流れで連携して支援できる社会資源の整備が進むとよい。

## ④高齢化の問題を抱えたケース（8050問題）

母親（80代）・知的障害（40代）の二人暮らし。知的障害の方が自己導尿をおこなっていたが尿道閉鎖のため膀胱瘻を造設した。透析も始まり、訪問看護や主治医と連携しての支援をおこなっているが、母も要支援2であり認知機能の低下もみられる。今後の支援体制および生活の組み立てが必要となっている。

## ⑤夫による本人及び子供へのハラスメント、虐待が続いていたケース

「夫から本人に対しての発言や行動が、モラハラ、虐待に該当するのではないか」との認識が以前から支援者間であった。本人は問題意識がなく、介入に対して否定的であったため、面談による経過観察で留めていた。その後、児の正常な発育と言い難いエピソードが見受けられ、夫から本人と子供への暴力が生じ、遠方へ避難。本人からの連絡をもとに、関係者と連絡調整。夫は本人の障害特性の理解などが著しくかけていたことがわかり、家族向けの疾病教育も開始。今後、本人の意向を踏まえ、子供の養育も視野に入れ、生活環境や家族関係の調整を行っていく。

## ⑥異性・借金・DV・持病等多くの問題を抱えているケース

40代女性（知的障害・糖尿病）の方。以前は、家事援助のサービスを利用していたが、現在は障害福祉サービスの利用はなし。交際相手の方は、反社会的勢力とつながりのある方で、借金・DV等の問題を抱えている。また本人より妊娠したとの話があったこともあった（実際には妊娠はしておらず、虚偽の発言だった。）持病があるため、妊娠した場合、母体に与える影響が大きいとの医師の話もあり。行政・関係機関と緊密に連携し、支援を継続している。

## ⑦盲ろう者の通所サービス支援

B型事業所への通所を開始したが、通所先からは「コミュニケーションの難しきや一般的なマナーの理解の難しさがある。」との指摘があった。特にコミュニケーション

の難しさに関する課題は継続しており、関係者間で連携して支援している。

⑧障害当事者の本人自身が重度訪問介護の会社を立ち上げ、サービス提供を受けているケース

現在別居中の妻がサービス管理責任者、同級生がメインのヘルパーとしてサービスを提供している。YouTuber としても活動をしており、身近な人達のサービス提供がメインとなる為、サービスの質と仕事の公私混同がないかどうかを確認していく必要がある。（毎月モニタリングを実施）

各事業所 相談支援実績報告

令和3年11月～令和4年4月

1	福祉サービス利用等に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所（居宅介護・通学支援・移動支援・日中活動等）探し</li> <li>・短期入所等、緊急時の利用案内</li> <li>・介護保険及び65歳以降の障害福祉サービス利用に関する支援</li> <li>・サービス事業所の提供中止に伴う支援</li> <li>・GH見学・体験利用・入居・転居等の支援</li> <li>・コロナ関連（緊急事態宣言やコロナ陽性・濃厚接触に伴うサービス利用中止等の調整）</li> </ul>
2	障害や症状の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、保護者の障害受容に対しての傾聴及び情報提供</li> <li>・希死念慮・妄想等について</li> <li>・本人の認知能力の低下への対応、関係機関との調整</li> </ul>
3	健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援医療申請、更新の相談</li> <li>・コロナワクチン接種関連（申込・予約・書類記入・接種・副反応等）</li> <li>・訪問看護・訪問リハ・訪問診療などとの情報共有</li> </ul>
4	不安の解消・情緒安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの不安（病院受診への不安や家族・サービス事業所がコロナに感染した場合等）や体調不良についての相談</li> <li>・日常生活の不安や不満に対する相談</li> <li>・サービス事業所等、子育てへの不安や不満など</li> </ul>
5	保育・教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園中のトラブルの相談</li> <li>・特別支援学校や子どもクラブとの連携</li> </ul>
6	家族関係・人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族関係・夫婦関係、ハラスメントについての相談</li> <li>・親族が亡くなるケースへの対応</li> <li>・家族の入退院や高齢化に伴うサービス調整</li> </ul>
7	家計・経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害年金申請・更新、企業年金、老齢厚生年金についての対応</li> <li>・生活保護申請についての相談やケースワーカーとの情報共有</li> <li>・フードバンクの活用</li> <li>・家計についての相談</li> </ul>

8	生活技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活全般についての相談（生活必需品購入、服装、時間管理、携帯電話の使い方、部屋の換気等）</li> <li>・転居物件についての相談</li> </ul>
9	就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援関係機関との連携</li> <li>・職場解雇についての相談</li> <li>・勤務先の人間関係や勤務内容の不満などの相談</li> <li>・オンラインでの採用面接への対応</li> <li>・コロナ禍での就労先の時間短縮や自粛に関する対応・相談</li> </ul>
10	社会参加・余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSでのトラブル対応</li> <li>・コロナにより様々なイベントの中止による不満、外出先等の相談</li> <li>・週末や通所後の過ごし方についての相談</li> </ul>
11	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護児に対する支援等について関係機関との情報共有及び支援者会議出席</li> <li>・成年後見制度に関する相談等</li> <li>・地域福祉権利擁護事業に関する相談、緊急保全について</li> </ul>

### 3 今後のスケジュール

- ・今年度のテーマについて検討を継続していく。
- ・講演会または勉強会の実施に向け検討していく。
- ・地域包括支援センターとの交流会の実施に向け準備していく。